



守ろう！登山者・住民の安全を



「残さず食べよう！30・10運動」を

松中キミエ

町 今後、調査研究していく

問 食べられる状態なのに捨てられる食品ロスは家庭やスーパー、ホテル、レストランなどあらゆる所で見られる。

環境教育を通して食品ロス削減のための啓発の考えは。

学校教育課長 完食を目標に取り組み、学校給食では食育・環境教育のため、食材

の内容について学習をしている。毎日給食でのざんさ調査も実施している。

子ども未来課長 食育活動の状況を、園だよりや給食

だよりを通じて各家庭に情報提供している。

問 食品ロスの多くが、飲食店からの生ごみである。ごみ削減はCO₂削減、温暖

化、地球環境問題にもつながる。

そこで、「残さず食べる運動」として宴会時、乾杯30分と修了前10分は、自分の席で料理を楽しむ運動を推進する考えは。

環境課長 町民、飲食店などと協議し調査研究していく。

住民を守る火山対策は

町 シェルターの設置を提案

問 火山被害から町民、観光客を守る対策は。

総務課長 登山者や観光客の対応が急務とされる。啓発活動として登山者に対し周知看板の設置や、観光客へのパンフレットの配布などを行っている。

避難小屋にはヘルメットの配置や防災行政無線の整備と、山頂付近に野外拡声スピーカーがある。

那須岳の噴火を想定した情報伝達訓練や避難誘導訓練を実施している。

問 住民参加の避難訓練の計画は。

総務課長 10月17・18日に、緊急消防援助合同訓練で栃木県が会場になり、本町は火山の避難訓練を実施するので、検討したい。

問 住民を守るために防災シェルターを設置の考

えは。

町長 2年前、御嶽山の噴火犠牲者の多くは噴石による被害である。

来年8月11日に第2回山の日を本町で開催予定である。

山の安全性を考え、積極的に防災シェルター設置を提案していく。



食品ロスは（一人一人の意識から）